

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員には管理者が、オリエンテーションで理念の思いや意味を職員に伝えています。職員室に絶えず掲示しており、理念を共有し実践しています。毎年部署目標を立てて達成に向けて努力をしております。	基本となる理念は法人が作成し、それを基に事業所理念の見直しを行っている。今年度は「人」資源を大切に、働き易い職場作り、職員の健康増進、セルフケア、研修システム、自己啓発等、職員会議で理念の共有を図り、その人らしい生活が継続出来るように、目標達成に向け取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商店街にお客様と共に買い物へ出かけます。また、当施設の納涼祭や地域の秋祭りへ参加者と地域の方からお声掛け頂き、お誘いを受けて頂いております。	事業所の近くにスーパーがあり、日常的に買い物に出かけている。また畑で作業をしていると、自然に地域の方からの声掛けがある。「民家に近い」と言う事業所の立地条件が交流し易い環境を作っている。「みかん」と言う事業所名も「橘」と言う地名に因み、「柑橘系の名前」と言う経緯もあり、11年目の事業所として地域交流が自然に行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生・専門学校生の体験実習・ボランティアの受け入れを積極的に行っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画を立て奇数月に実施しております。ホームでの状況・事故報告・苦情などを報告し、意見交換を行っています。また、火災防火訓練にも参加して頂き助言を頂いております。	計画通り奇数月に開催され、区長が持ち回りで参加している。地域包括支援センター職員や家族等の参加もあり、事故報告、苦情等について活発な意見交換が行われている。委員からは防災訓練時に参加してもらい、地域に向けてサイレンを鳴らす等、運営推進会議の意見を活かした取り組みが行われている。しかし、残念ながら利用者は会議に参加していない現状であった。	11年目の事業所として、充実した内容で運営推進会議が実施されているが、利用者の処遇等を検討する会議の席において、利用者本人が参加されることで、更に本来の運営推進会議の目的の達成、地域に向けての深い理解と信頼が得られる機会となるので、時には会議に参加出来るように配慮、検討されることが望まれる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて参加頂き、情報交換を行っております。制度上の疑問など伺いながら取り組んでおります。	運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員、市の介護保険係等、情報交換も含め、制度上の疑問点について直接出向いたり、電話の問い合わせ等、各種の相談事が日常的に行われている。また日頃の連携の中で、地域とのトラブル、困難ケースについては、解決に向けて共に協議し、相談が出来る体制が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、事業所や法人全体で、勉強会が行なわれております。また、日々ミーティング等で身体拘束に値しないか振り返りながら個別の支援に取り組んでおります。	身体拘束廃止委員会が設置されており、事業所単位、法人全体で勉強会が行われ、更に職員会議時の復命報告等を通して理解を深め、共有を図っている。利用者は個別にセンサー等は使用していない。現在、身体拘束防止に向けてのマニュアルは整備されているので、発見時のフローチャート等の作成に向けて検討しながら日々の介護を通し、身体拘束をしないケアに繋げている。	
7	5-2	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、事業所や法人全体で、勉強会が行なわれております。また、日々ミーティング等で虐待に値しないか振り返りながら個別の支援に取り組んでおります。	虐待廃止委員会が設置されており、事業所単位、法人全体で勉強会を通し、学ぶ機会を設けている。虐待防止マニュアルと虐待発見時のフローチャートが整備されており、職員会議や日々のミーティング等で、虐待について共有を図りつつ、お互いに言い易い環境作りを図り虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度活用しているお客様はいらっしゃいませんが、今年度7月に外部講師を招いて、勉強会をする予定でございます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や今年度は介護報酬の改定があり、ご説明し納得の上、同意をしていただきました。書面ににてご署名を頂いております。また、ご不明な点はないか、また、ご理解頂けているか再度お尋ねしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その日の受持ち職員が、お客様の声を聞いて実現につなげるよう努力しています。また、年1回お客様と家族に顧客満足度の調査を行ない、言いにくいことでも書いていただくことで課題として改善していく機会を作っています。	年に1回、家族に向けてアンケートを実施している。その中で重度化、看取りについての意見が付され、看取りについては事業所の職員体制、地域資源、医療機関の協力等の整備を図りつつ、現時点で対応出来ることを説明している。家族に理解が得られるように、事業所としての考えを発信し、課題の改善に努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の部署会議、職員会議等で、職員の意見・議論を大切に運営しています。また、業務改善を上げ職員の意見を業務に反映しています。	管理者が、職員と個別に面談をする機会を設けている。話しやすい環境を日頃のさりげなく会話が出来る関係を作り、聞き取るよう工夫している。業務改善で「ノー残業デー」が出来る体制など、職員の意見を業務に反映させながら、働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、目標管理を軸に、自分の立てたやりがいのある目標に向かってチャレンジし、努力を続けることを大切にするように職員個別に指導しています。また、定時退社日を設ける等努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の教育委員会があり、モチベーションが上がるように、学ぶことを常に推進しています。新入職員のフォローアップ制度や、グループ内、法人内の研修制度もあり、職員育成に力を入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のGH連絡会があり、定期的に交流の機会を持っています。法人内の連絡会(2ヶ月に1回、10ホーム参加)では、サービスの向上を目指して現状報告や意見交換を行なっています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様やご家族の思いを受け止め、安心して頂けるように、利用前にご本人にお会いして直接話をお聞きしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立ってお話を聴き状況を把握し、対応に努めております。遠方の家族でも電話にて連絡を取り家族の想いをお聴きしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、家族、担当ケアマネから本人の状態をお聞きし、本人にお会いして、想いや状態を確認しながらサービス導入に努めています。入居に至らなかったケースもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の残存能力・体力を考慮した上で、出来ること、役割を探しながら支援しております。また、その方の希望が叶うよう、対話を大切にしたり関わりや、お客様の気持ちや理解した関わりを心掛けております。		
19	7-2	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時やお手紙などで、日々の様子をお伝えし、情報の共有に努めています。面会時は、お部屋とフロアでゆっくりお過ごし頂けるように配慮しております。	家族会は今は招集していないが、不備が無いように工夫している。面会時、または電話等で何うようにし、職員側だけで決めず、家族に協力をいただく機会を多く持つようにしている。個々のケースにより、受診時の付き添い、本人不安時の対応など、随時、家族の協力いただきながら、本人を支える関係が出来ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、御面会や誕生日の外出、外泊、お客様が行きたいと思っている場所に行き、ご家族やご友人等、大切な方と合う機会を作り、関係が途切れないように務めております。	事業所発行の広報誌を見て、近所の方が訪ねて来られる。また地域内にある入所前から利用していた床屋に行き、髪を染めてもらう等、外出は内容を問わず、制限なく出来ている。本人、家族の望む入居前の医療機関での受診等、入所後も、関係性が途切れないように、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の友好関係の確立されている所を大切に、居場所の配慮、食事作り、お掃除、買い物をされるなど共に出来るように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後についてご家族が不安を感じた時や入院された時など、病院などの話し合いに同席し、医療連携室などを通じて支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを持ちながら本人の想いの把握に努めています。困難な場合は、チームで支援できる様、カンファレンスシートでご家族の意向も踏まえ検討しております。	アセスメントはセンター方式を使用し、定期的にモニタリングを行なっている。本人、家族の思いや意向の把握を大切にして、ケアに活かそうと職員で話し合った結果、担当者会議の記録用紙にある「本人、家族の意向」の欄を重要と捉え、確認をしながら日々のケアに繋げている。	
24	9-2	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問で情報情報を得たり、ご本人やご家族の意向もセンター方式シートを活用して情報を得ています。その情報を基に、本人の思いや、ご家族の想いを大切にし関わりた関わりを目指しています。	日々の経過の過程で、最初の状態や意向が変わってきている事も多く、事業所では状況の変化に応じ記録を更新しつつ、本人、家族の積み重ねた経過を大切にした関わりを目指し、職員は工夫しながら情報を把握している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況を全職員が把握して、ご本人が出来る事を大切に、役割を持って頂けるようミーティングで検討し、本人が安心して過ごしていただけるように心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期のモニタリングやアセスメントで、気づき、ご意向からカンファレンスを行い、活発な意見交換を行っています。ご本人やご家族のご意向も大切に介護計画を作成しております。	可能な限り本人、家族の思いや意向を確認し、大切にしたいという中で、約半数の利用者が自身のモニタリングに参加が可能となった。また、先月よりパートの看護師がスタッフに加わることで、入院しないで事業所で状況経過を見ていく希望のある利用者について、担当医師と家族を含めたチームとしての連携とケアを見直したり、検討の幅が広がる話し合いになり、本人、家族を含め参加者の意見を取り入れ介護計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のちょっとした変化を個々の生活記録に残す様努力しています。少しでもいつもの状態と違いのある時は、ミーティングで話し合い、カンファレンスに繋げ介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、通院等支援をしています。本年度は完全なる看取りとは行かなかったですが、終末期を迎えたかたのケアを支援させていただきました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校や消防などへ働き掛けを行ったり、運営推進会議には地域の方に委員になっていただき連携を図っております。地域の方より畑をお借りし、野菜作りなど行ない季節感を味わって頂いております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	協力医療機関との連携を重視して、入居 時に同意と納得を頂いてからかかりつけ医 の変更を行っております。ホームでの様子 を詳しくお伝えし、適切な医療を受けられ るように支援しています。	医療受診時は連絡表を用意し、当日までの 状態を医師に伝えている。家族にもそれぞれ 用意し、出来るだけ適切な受診が得られるよ う支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者 が適切な受診や看護を受けられるように 支援している	体調チェック表にバイタル測定値や特記 事項を記入し、看護職に定期的にチェック してもらいながら日常的な連携に努めてい ます。事故や異常時は速やかに相談し、 早期に医療機関につなげられるようにして います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、又、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。あるいは、そうした場合に 備えて病院関係者との関係づくりを行って いる。	入院した場合は面会に行き、本人の状態 を確認しています。退院時の食事指導等 も直接受けています。また、家族や病棟の 看護師と連携をとって退院への支援をして います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	お客様の家族が不安に思われ問われてこ られます。その為、ご本人の状態も考え充 分に方向性を話し合った上で、事業所で できる精一杯の支援をさせて頂いておりま す。	重度化や終末期に向けた話は入所時、認定 結果変更が有る時にはカンファレンス時、「住 み替え」も含め再度確認をしている。現在の 課題として、出来るだけ地域の医師と複数の コンタクトをもてる連携やチーム作りを目指 している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練 を定期的に行い、実践力を身に付けてい る	救急法の講習を受け基本を学んでおりま す。施設内や、ホーム内の勉強会で訓練 を行ない、対応を身につけるようにしてい ます。また、AEDの操作方法も学んでい ます。	全職員がAEDの研修を修了している。急変 時の事故対応マニュアル、連絡方法、手順の フローチャート等が整備されており、応急手 当普及指導員研修の修了者も増えている。 初期対応の訓練を定期的に継続して行なっ ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各棟での避難訓練を定期的に行ない、各職員がスムーズに行動ができるようにしています。年に1回の総合防災金連では、地域の消防団の方、住民の方にも参加して頂いております。	各種マニュアルは整備され、年1回地域との防災訓練時には、事業所からサイレンを鳴らし、地元の消防団・近隣住民の参加等、11年目の積み重ねと共に、地域の訓練には利用者が参加し、災害時の協力関係体制がある。具体的には、災害時使用する可能性のある防空ずきんが、それぞれの居室の入り口に、きれいな色使いでさりげない装飾のように整備されており、職員がドアを開け防空ずきんを取り、誘導する手順や停電の可能性も検討し訓練している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを意識しています。不必要に大きな声での会話や、カーテンや扉の開閉に配慮する等、プライバシーにも配慮した対応を心がけています。	接遇の研修やマニュアルの中に、個人情報の保護と共に、プライバシーの言葉が入っているが、個人情報とプライバシー保護が混同したり、まとめて同一視してしまう恐れがある。現在、プライバシーに関する具体的な研修や職員同士の話し合いはまだ行なわれていない現状であった。	一人ひとりの尊厳に配慮した対応には、プライバシー保護の確保が欠かせない。排泄、入浴等の誘導時の声掛けは勿論、日常生活の中で、誇りや尊厳などプライバシーに留意した対応が常に求められている。今後は、全職員がプライバシー保護に関する具体的な確認を共有していく為の研修実施やマニュアルの整備が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に心がけて、思いや希望を言いやすいように努力をしています。特に、食べ物のご希望はお客様から出やすく、好きな飲み物やお茶菓子の希望は沢山聞いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聴き取り少しでも希望に沿えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服などの選択など、その人らしくいられるようにご本人にもお聞きしながら配慮しています。また、必要に応じて介助しています。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理のしたごしらえや、味見、食器洗い、食器拭きなど、声をかけながら行なっています。率先して行なって下さる方もいらっしゃいます。また、お食事もお客様、職員と共に食べています。	買い物、下ごしらえ、テーブル拭きや食器洗いなど、利用者が日常のひとつとして参加し、準備や後かたづけを職員と一緒にしている。みんなが、それぞれ自分で作ったおはぎやちらし寿司など、食べたい希望を大切にしており記録に残している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事では、一人ひとりに合った量や携形態の検討をしながら提供しています。水分量の少ない方には、ご本人の好まれる物を提供しています。また、体調の変化もしっかりと記録し、医療につなげています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯みがきやうがいをお客様がご自身で出来る様に声を掛けたり、見守りながら行なっています。磨き残しの有る方には介助し、舌の汚れの有る方には舌ブラシを使用し毎食後清潔に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に定期的なトイレ誘導、排泄チェックを行なっています排泄パターンをとり、サインを見逃さず、失禁を減らすために、トイレでの排泄を促しています。オムツ外しを心掛け、失禁パンツにパットや布パンツの使用に努めています。	一人ひとりの排泄パターンを確認し、タイミングと時間をみて誘導し、出来るだけトイレでの排泄を促す支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便となるように、水分補給を多めにしたり、毎日の体操、散歩等で体を動かしたり、便秘予防となるような食事にも配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添える努力と体温や血圧が安定されている時間帯に入浴していただけるようにしています。	一応、入浴日の設定はしているが、別な日に希望が有る場合は何時でも対応できる体制にしている。入浴の際、特にケアの中での留意点は個別のサービス内容に記入し、ここに支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、夜間眠れる様に関わっています。本人の就寝時間に合わせ休んで頂いています。居間に冬はコタツを設置したり、長座布団を置き休息しやすい環境を作り、安心感、居心地の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の一覧表を作成し、担当者を決め、他の職員と確認しながら服薬をおこなっており。薬の開始、中止など変更がある場合は、理由を明確に記録して周知。医師や看護との連携を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、踊り、掃除、編み物、買い物など一人ひとりの得意なこと、出来ることを活かして役割を持っていたき、職員も共に楽しみながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物など、外に出かけることを大切にしていきます。地域のイベントにお誘いで協力し外出支援をしています。	地域の祭りや地域での行事への参加や近くにあるスーパーへの買い物、事業所の畑を近隣の方と旧友のように挨拶しながら耕したり、庭から続く裏山への土手に生える山菜や木の芽採りなど、今までの生活の延長や習慣など、一人ひとりの思いを大切にくみ取り、日常的に散歩やドライブなどでの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、本人とご家族の意向を確認しています。事業所としては基本的にお金はお預かりしていません。ご本人が所持されている方は、使用時にに関わり、支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	お客様自ら電話を掛けたいと仰る方はご本人のご体調に配慮し支援しています。電話がかかってこられた時には、やり取りが出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけはお客様と一緒に作った作品を毎月飾って季節感を感じられるような装飾を行っています。生活感を感じられるように季節の野菜を使い食事を作っています。また、テレビの配置も過ごしやすいように、お客様と相談し共有空間で楽しめる工夫をしています。	事業所内は落ち着いた色調であり、季節感が感じられ、地域が誇りにしている風景写真や昔の写真が利用者の目線の高さに配慮されて飾られており、利用者が懐かしむ気持ちや楽しめるよう配慮されている。畳のコーナーは利用者のお昼寝にも使われている。色々なものを置きたくなる廊下は、綺麗に整理され利用者の歩行の妨げにならないよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席などで気の合ったお客様同士お話をされて過ごされていらっしゃるようです。天気の良い日には、日の当たる場所でお茶のみ日向ぼっこ、窓際に椅子を設置し外を見たりし落ち着いて過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には本人の使い慣れたダンスや、写真など持ち込んで頂いております。馴染みのあるものを持ち込んで頂けるよう声もかけさせて頂いています。自作の作品を飾ったりしています。	居心地よく生活出来るよう、馴染みのある本人の大切なものが身の周りに配置されている。居室の名札も、本人の書いたものなど、色々な形、色々な生活の彩りを活かし、居心地よく過ごせるよう本人、家族と相談しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎年、危険箇所の点検を職員で行い改善してきました。		